

Windows 8 Release Preview & Office 2013

評価版をダウンロード・インストール (CD) 同時に Office 2013

エイトがいよいよ10月26日に発売

エディションは4種類 Windows 8. Windows 8 Pro, Windows 8 エンタープライズ、(法人) Windows RT (ARM アーキテクチャーのタブレットに搭載)

10月26日以降に Windows 8 を入手する方法

Windows8 優待アップグレード版 を購入	提供されるエディション	Windows 8 プロ
	アップグレード対象	7/ビスタ/XP
	価格 (国内未定)	ダウンロード版\$39.99 DVD版\$69.99
	販売期間	10月26日~2013年1月31日
Windows8 優待購入プログラムか ら購入	提供されるエディション	Windows 8 プロ (ダウンロード版のみ)
	対象ユーザー	6月2日~2013年1月31日に7搭載PCもしくはDSP版7を購入したユーザー
	価格	1200円
	申し込み先 (準備中)	

Windows8 では、マイクロソフトの各種クラウドサービスを利用するため「マイクロソフトアカウント」でログオンする。「これはウィンドウズライブ ID を改称したもの」これによりクラウドサービスとの自動連携が可能となった。

スタートメニューに相当する機能が画面右側からせり出してくる「チャーム」と呼ばれる。ここから電源のシャットダウンを行う「電源ボタン」はここにある。従来のスタートメニューにあった機能が「チャーム」というパネルに集約され、「すべてのプログラム」に相当するアプリ一覧もここから開く。

マウスポインターを画面右上に合わせるとチャームがせり出してくる。目的のアイコンをクリックすると下記のような設定パネルが開く。チャームはスタート画面、メトロスタイルアプリ、デスクトップのいずれも使えるが、設定パネルの内容はアプリによって変化する

検 索	アプリやファイルの検索、メトロスタイルの IE ではネット検索
共 有	フェイスブックやピープルで情報を共有
スタート	スタート画面に戻る ウィンドウマークでも可
デバイス	印刷などの周辺機器にアクセス
設 定	スタート画面やメトロスタイルアプリの設定を呼び出す

8は2つのアプリ実行環境を備えているのが特徴。7向けアプリを動かす「デスクトップ」それとは別に「メトロスタイル」と呼ばれるアプリ実行環境が新たに加わった。両者は完全に別もの

メトロの一つのタイルをクリックすると全画面モードで立ち上がる。メトロスタイルでは、タッチ操作に最適化された大き目のアイコンを採用。

左下にある「デスクトップタイル」をクリックするとデスクトップ表示に切り替わり、従来と同じ画面でソフトが起動タスクバーで起動中のアプリを管理

わたくし達がよく利用するワードやエクセルはデスクトップ表示から作業開始となる。

ワードの文字打ちで優れものは携帯電話のように予測文字が表示され、とても楽になった。

コンパネは右端に表示される「チャーム」から 設定→コンパネをクリックあるいは検索窓にコンパネと入力する



8 の場合、兎に角マウスを右上に持って行ってみるとチャームが表示される。検索窓を利用する。

また、ビスタや7では削除されていた1つ上の階層のフォルダーに移動する「上へ」ボタンが復活。よく使うアプリはタスクバーにピン止めをお勧めします。





この状態でタスクバーに表示されているアイコンを右クリックし「タスクバーにピン止めする」をクリックすると以後楽にコンパネが起動できます。

メールソフトについて

8の標準メールソフトはメトロスタイルの「メール」のみで、デスクトップ向けのメールソフトは付属しない

このメールは従来の Windows Live Mail の形状とよく似ている。左側にフォルダー、中央メール一覧、右側選択したメール内容。ただし評価版ではホットメールとGメールのみ。

チャームの「設定」→「アカウント」から「新規アカウントの設定」

メトロスタイルアプリ「スカイドライブ」が用意されていてこのアプリではスカイドライブ上のファイルやフォルダーがタイトルとして表示され、例えばエクセルファイルをクリックすれば web 版 office の「オフィスウェブアップス」が起動して書類を開く

メトロ版とデスクトップ版 2 種類用意された IE

タブ



アドレスバー

機能ボタン

機能ボタンの「スパナボタン」をクリックすると「デスクトップで表示する」をクリックすれば通常わたくしたちが使っているデスクトップ版 IE へ移動

デスクトップ版の IE は7までの IE と大きな変更点はありません。手軽にネットサーフィンを楽しむときはメトロ版、Office はデスクトップというように使い分ける。

メトロ版 IE には（評価版だから？）お気に入り機能はありません。

Office2013 をインストールすると、スタート画面にワードやエクセルのタイルが追加される。ワードをクリックすると、自動的にデスクトップに切り替わりワードが立ち上がりすぐに作業ができる。従来のアプリはデスクトップで利用することになる。



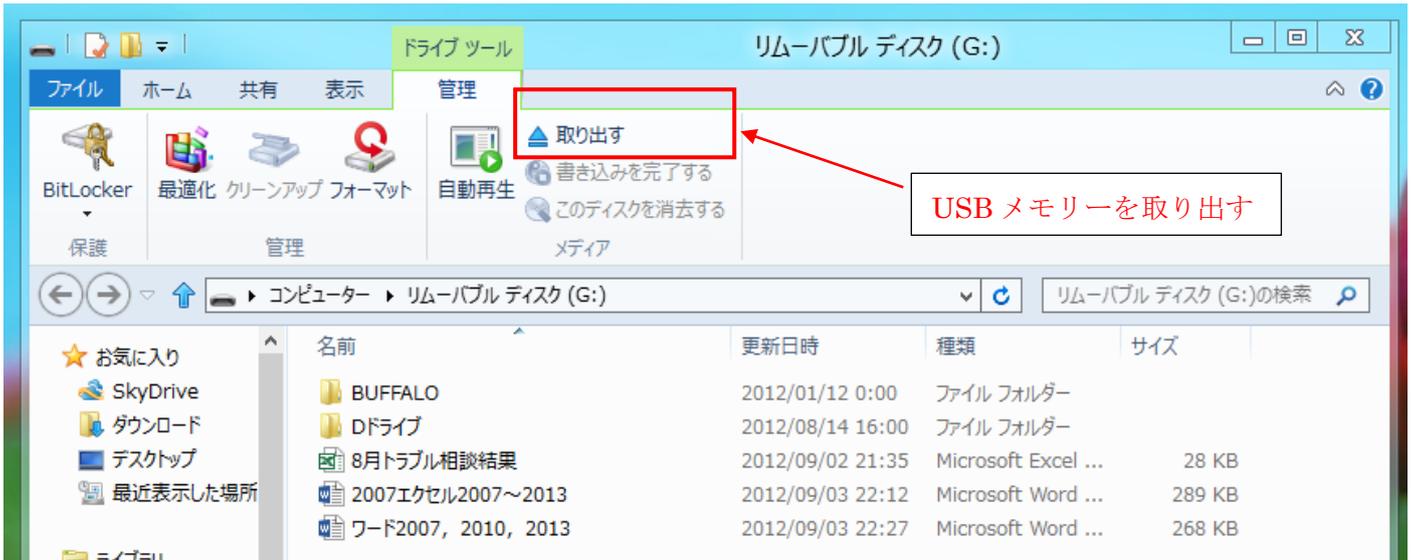
ワードを右クリックすると画面下部にメニューが現れ、上記のようなタスクバーが表示されるのでそこでワードのアイコンのタイル（スタート画面）やタスクバー（デスクトップ）に登録できる。こうした作業を「ピン留め」と呼ぶ従来の右クリックメニューに相当する機能がここに集約されており、アプリのアンインストールなども可能

「スタート画面に登録 / 登録解除」タスクバーに「登録 / 登録解除」が表示されている。



ワードのタスクバー、次々とタスクバーにアプリの追加が増えていくと思いますが

ピン留め



USBメモリーを挿入すると画面右上にメッセージが現れ、処理方法を選択できる。「フォルダーを開いてファイルを表示 エクスプローラー」をクリック

リボンが表示され、タブに「ドライブツール」の管理が現れ「取り出す」をクリックする

左側で「コンピューター」を選ぶとハードディスクやUSBメモリーなどが表示されるのは7と同じ。リボンは「コンピューター」タブが表示されている。リボンの内容は表示対象に応じて変化する。

プリンター複合機や無線LANの接続は超カンタン

7にインストールしているのでしばらく待つとPCが認識してくれる。